

第9回経営改善委員会 議事概要

1. 日 時 令和5年12月26日(火) 14時00分～16時00分
2. 場 所 JR北海道本社 会議室
(※の出席者はWEB会議形式で参加)
3. 出席者
 - (1) 委 員 片野坂真哉委員長、知野雅彦委員、友定聖二委員、石井吉春委員、檜森聖一委員、上浦正樹委員(※)
 - (2) オブザーバー 国土交通省 岡野まさ子鉄道局審議官
国土交通省鉄道局鉄道事業課 山崎雅生課長
国土交通省北海道運輸局 井上健二局長
鉄道・運輸機構 伊地知英己経営自立推進統括役
 - (3) JR北海道 島田修会長、綿貫泰之社長、今井政人副社長、宮越宏幸常務、萩原国彦常務、島村昭志取締役、川戸俊美取締役、島津勝一取締役

4. 議事概要

(1) JR北海道グループ経営改善に関する取り組みについて

「JR北海道グループ経営改善に関する取り組み」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- 上期決算については環境の好転による影響もあるが、会社の努力が実ったということで評価できる。また、社員の離職率の低下のためにも、会社の努力が実っていることを社員に丁寧に説明するべきである。
- インバウンドに対しては、鉄道のみならず駅から観光地までの移動手段までをパッケージ化し、利便性を高めながらダイナミックプライシングを導入したら良い。
- 開発事業は工事費のコストアップ要素が多い環境にある。案件により「急いで進める」、「慎重に進める」といったバランスをとりながら進めるべきである。
- ESG、環境に対し積極的に取り組みクリーンな企業イメージを醸成することで、若者を惹きつける魅力ある会社になる。
- DXなど新しい技術を系統間で共有し、工務・電気系統、運輸・車両系統という縦割りを改め、技術者を育成すべき。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 決算について成果がでていることを、社員に丁寧に説明していく。
- ◆ 鉄道と二次交通、宿泊施設との組み合わせ、また道内に入る航空との連携も含めたパッケージ化に取り組んでいく。
- ◆ 開発案件は建設工事費の高騰に対し、収支バランスを慎重に見極めながら取り組みを進めていく。
- ◆ 環境施策は当面の方向性として、CO₂を3年間で1%ずつ削減に取り組んでいく。また、自社保有の森林「かみふらのの森」に関する環境の取り組みなどもアピールしていく。
- ◆ DXを組織の横ぐしとして刺すことで新しい技術の共有化を進めていく。また、当社の中だ

けではなく、各鉄道事業者における技術の活用も進めていく。

(2) 人材確保に向けた取り組みについて

「人材確保に向けた取り組み」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- きつい労働に対する若者の感覚は相当シビアであり、給与や処遇だけではカバーできない状況である。どの職種でも機械化等を更に進めていくことが必要である。
- 地方職場の離職対策として、都市部をハブとした地方との人事運用を検討すべきである。
- 社内で若者に対して「こう評価している」と本人に示し、勇気づける、応援することが重要である。
- ダイバーシティについて、女性はもちろん外国人の採用も考えるべきである。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 機械化については、例えば保線では、日中時間帯に列車を運休し、集中的に機械によるメンテナンスを行うといった取り組みを行っており、今後も継続的に取り組んでいく。
- ◆ 地方勤務の人事運用について、ライフプランも含めてコミュニケーションを取りながら進めていく。
- ◆ 社員にわかるようにキャリアパスを説明していく。
- ◆ 外国人採用は他社の事例も参考にしながら取り組んでいく。

以 上